

令和3年度 林業普及週間現地情報(5/10～5/14)

森林管理課

コバノナンヨウスギの結実

5月12日（水）

沖縄県県民の森でコバノナンヨウスギ (*Araucaria heterophylla* Franco、別名：シマナンヨウスギ) が結実していたので報告する。

県民の森では、12本に合計56個の球果が確認された。球果は直径7～10cmで、羽の付いた種子の集合体である。その結実位置は、高さ13～15mであった。

コバノナンヨウスギは、オーストラリアとニュージーランドの間に位置する南太平洋ノーフォーク島原産で、樹形は直立し美しく、樹高が10～30mとなることから世界三大庭園樹にも数えられ、耐風性も高い樹種である。県内での活用は、公園樹や街路樹としての緑化木以外に、森林・林業分野では、耐風性の高さを活かし、治山事業の防災林造成事業等の植栽樹種としても活用されている。

県内でも広く利用されているコバノナンヨウスギであるが、県内での苗木生産の現状は、上記のように、結実位置が高く、成熟した後は、羽の付いた種子が風散布により、拡がるため、まとまった種子の確保ができないことが課題となっている。そのため、今回結実が確認された種子については、成熟時期を見計らい、成熟直前で球果ごと確保できるように、測棹の先に小型の鎌を付けた測棹鎌や高所作業車等を活用した確保を検討していきたい。



写真 球果の状況

(報告者：北部農林水産振興センター 今田、玉城、森田)